



Q

以前クイズのハガキに鳴石団地の階段の件を書きました。だいぶたって、そこを視察したと議会だよりに掲載だったので、一人の意見もちゃんと届いていると実感しました。(令和7年12月135号)

A

年4回の発行のためお答えが遅くなってしまい大変申し訳ありません。今後も皆さんの意見に真摯に向き合って参ります。

Q

“国際化”はさけられない。出来る事は、英語をより積極的に活用、学習することかも知れない。(令和7年12月135号)

A

高田高校生を米クレセントシティ市のデルノート高校に派遣する一方、デルノート高校の生徒を本市に迎える相互交流事業に加え、令和7年度からは中高生を秋田県国際教養大学のイングリッシュビレッジに参加させるなど英語教育に力を入れています。



Q

一度議会を傍聴したいと思いながら、一度は是非。(令和8年3月136号)

A

お待ちしております!



Q

行政へ有権者の考えを反映、または修正していく機能を持つ議会での活動プロセスがよく分かり、興味深く拝読しました。(令和7年9月134号)

A

結果ではなく経緯を伝えることに重きを置いて編集しています。その点を読み取っていただき嬉しい限りです。



Q

こども条例いいと思います。でも子どもの数がどんどん少なくなって、将来の陸前高田市はどうなるのかと不安です。若い人が定着して、働けて安心して子育てできる市にしてください。(令和7年12月135号)

A

陸前高田市こども基本条例には、市が責任を持って子育て支援に取り組むことだけでなく、事業者や地域住民も子育て支援に取り組み、市全体で子育てやこどもの成長を支えていく考えが示されています。市全体での子育て環境向上に向け、条例の周知に取り組んでいきたいと思っています。



Q

一般質問の内容が議員同士でかぶらないようにしてください。(令和8年3月136号)

A

一般質問は議員が重要な市政課題を取り上げるため、相互に質問が重なることがあります。また、議員個々に質問の視点が違うので、再質問にも注目ください。



議会と市民の交流コーナー

ミニ特集

寄せられた意見への回答



議会と市民の交流コーナーに対してみなさんから寄せられた「意見・質問」(133号～136号掲載分の一部)にお答えします。

Q

市議会だよりを今回初めてしっかり読んでみました。どうしても興味があるものだけ読み、興味ないものはスルーしてしまいます。できるだけスルーしないよう次回も読んでみます。高田が良い街になるよう、考えてみたいと思いました。(令和7年6月133号)

A

より興味が湧くように、議会だより編集小委員会も努力して参ります。

Q

「市議会だより」高齢者にとっても読みやすくなり嬉しい限りです。カラーで字も大きく、すみずみまで読みたくなります。委員の方々の努力が見てとれます。(令和7年6月133号)

A

前136号で紹介しましたが、専門機関での研修などを行っており、ますます読みたくなるような誌面づくりに努力していきます。



(株)会議録センター(埼玉県)で研修中

Q

参院選の投票が期日前投票所のアパッセでできていたへん良かったです。日常の買い物ついでに投票した人が私の周りでも結構いました。タクシー券の利用はどうだったでしょうか。経費はかかりかかったと思います。改善の必要あり?(令和7年9月134号)

A

アパッセで投票した人は昨年の参院選で1736人、今年の衆院選では2532人に増加し、認知度が高まったようです。タクシー券は参院選で121人の利用があり、衆院選でも同程度だったようです。



Q

脱炭素については、森林の再生などもっと取り組んで欲しいと思います。異常気象によって、生態への悪影響も考えられます。(令和7年6月133号)

A

陸前高田市は国の脱炭素先行地域に選定され、脱炭素推進室も設けられ、同施策に特化した事業も展開されているところです。



メタン発酵の実証実験

Q

「陸前高田の魅力を語る」では地元で活躍する青年のお話に、本市を思う気持ちが心に伝わってきました。本当に嬉しいですね。陸前高田が魅力ある市になるよう、一市民として願っています。(令和7年9月134号)

A

またこのような企画に取り組みたいと思います。

Q

マイナカードに関して、役所以外に郵便局でも対応できる仕組みは、市民にとっても便利であると感じます。高規格救急車更新の件は、高額品でも命にかかわることですから、市民も賛成するはず。素敵な考え方が多い議員さんに感謝です。震災からの復興、頑張ってください。(令和7年9月134号)

A

本市に心を寄せていただき、ありがとうございます。応援を励みに持続可能なまちづくりに取り組んで参ります。

